

日頃から県労福協の活動にご支援・ご協力いただきありがとうございます。

2022年6月28日(火) 県労福協構成団体の一つである(一財)熊本県労働者福祉会館第70回評議員会が開催され、1年間の事業報告、そして今後1年間の事業計画が提起されすべての議案が承認されました。この1年新型コロナウイルス感染症拡大から、会議室の利用含めて収益がどうなるのか非常に危惧していましたが、連合熊本含む会員の方々のご支援ご協力から、概ね順調に推移したと評価できていると思っています。今後とも連合熊本、県労福協と一体となり運営していかなければなりません。

さて、第9号のひと言コーナーは県労福協理事 山野さん(運輸労連委員長)から寄稿いただきました。運送業界は、燃料費の高騰、ドライバーの不足等取り巻く環境は非常に厳しいものです。そのような中、組合員の先頭に立って日々奮闘されています。厳しい環境の中頑張っておられる皆さんにしっかりエールを送りたいと思います。

多忙な中寄稿いただきましたので、「運輸労連」について知っていただければと思います。

【1】山野理事(運輸労連熊本県連合会執行委員長)からひと言

熊本県労福協理事の運輸労連・山野です。

私たち運輸労連(全日本運輸産業労働組合連合会)熊本県連合会は、トラック運輸を中心に様々な輸送分野で働く仲間(5組合、約1,500名)が加盟しています。

トラック運輸に働く仲間の「ゆとりと豊かさ」を実現するため、雇用を守り、賃金・労働条件を改善して誰もが安心して働くことができる職場づくりはもとより、事故防止、健康管理など職場環境の改善や労災補償の充実にも取り組んでいます。また、全国的な運輸産業の政策課題では、道路整備・事故防止・環境対策、公正な競争の確保など国や地方、業界団体と活発に交渉しています。

運輸業界を取り巻く環境の厳しさは、コロナ禍の影響、燃油価格の高騰、ロシアへの経済制裁による諸物価高騰の懸念がある中、食料や生活必需品はもとより、医療関係用品・医薬品など国民生活や生命にかかわる物資の輸送を担うライフラインであり、ドライバーをはじめとする労働者の心身両面での健康や生活の安定は不可欠です。

直近の取り組みを紹介しますと『トラックの安全を守る全国行動』として、下記4項目を中心に6月～7月上旬に実施しています。

- ① ドライバーの安全運転を支援する先進技術等に関するアンケート調査
 - ◆衝突被害軽減ブレーキ・ASV(先進安全自動車)の推進など
- ② 職場安全点検調査
 - ◆労働環境の実態把握に加え、定期健康診断の完全実施要請と特に重大事故を引き起こす、心臓疾患・脳疾患の検査・検診の促進
- ③ 過積載防止と過労運転防止運動ならびに飲酒運転撲滅
 - ◆輸送の安全に支障をきたす、過積載・無理な時間設定・悪天候時の運行など重大事故につな

がる違反等の防止

④ 駐車場附置義務義務条例の自治体要請



(海外現地法人台湾ヤマト運輸視察)



(単車の宅配便です：台湾ヤマト運輸)

■現地法人視察が再開出来ることを願っています。

【2】中央労福協活動コーナー

■「全国研究集会開催地」について

2022年度 静岡市

2023年度 西部ブロック 愛媛県(松山市)

2024年度 南部ブロック 熊本県(予定。今後南部ブロックで開催場所の協議を行います。)

【3】南部労福協活動コーナー

■2022年度労働者福祉南部ブロック協議会第1回事務局会議及び第2回幹事会

日時 2022年6月20日(月) 13時30分～

場所 大分県労働福祉会館 ソレイユ

協議事項

(1) 次期(2023年2月以降)の事務局担当県について・・・時計廻り各県持ち回り
鹿児島(2021-2022)⇒**熊本(2023-2024)**⇒長崎(2025-2026)⇒佐賀
(2027-2028)⇒福岡(2029-2030)⇒大分(2031-2032)⇒宮崎(2033-
2034)

(2) 第8回労働者福祉南部ブロック協議会「労働運動・労働者福祉運動の歴史・理念・
リーダー養成講座」について

日時 2022年8月26日(金) 13時30分～27日(土) 12時30分

場 所 鹿児島サンロイヤルホテル(鹿児島市与次郎 1-8-10) 電話 099-25-2020
(3) 南部ブロック研究集会について
日 時 2022年10月13日(木) 13時30分~14日(金) 12時00分
場 所 鹿児島サンロイヤルホテル(鹿児島市与次郎 1-8-10) 電話 099-25-2020
※参加要請文が届き次第県労福協から発文します。

【4】県労福協活動コーナー

(1) 第4回熊本県労福協「次世代リーダー研修・交流会」(案)

日 時 2022年9月17日(土) 14時00分~

場 所 熊本県労働者福祉会館大会議室

テーマ 労働組合と労働者福祉運動について

講 師

友田連合熊本会長・・・連合熊本30年の歩み

九州労金熊本県本部長、こくみん共済coop熊本推進本部長・・・労働者福祉運動について

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、開催方式、日程等の見直し・変更検討を行う。

(2) 連合熊本・県労福協合同研究集会(案)

新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて開催方法・日程等の見直し変更を検討するが、昨年とおりの参加要請を行うことを基本とする。

日 時 2022年12月7日(水) 13時30分~

場 所 ANA クラウン プラザ ホテル熊本ニュースカイ

テーマ 検討中

講 師 選考中

過去のテーマ

労働者福祉運動・労働衛生安全・メンタルヘルス、自然災害に備えて防災・認知症の基礎知識と予防、介護の政策課題・貧困とひきこもり、SDGs、ポストコロナの時代における共助
※テーマ、講師の先生の選考を行います。皆さんから「こんなテーマ」「この先生はどうか」等お知らせいただければ・・・宜しくお願いします。

【5】雑学(トリビア)コーナー

■**牛のげっぴ**による地球温暖化と対策・・・ご存じの方もいらっしゃると思いますが、ご一読ください。

近年、地球温暖化が進み、暖冬などの影響が見られるが、その主な原因の一つとされるのが「メタンガス」である。

メタンガスは温室効果ガスの中で約16%の割合を占め、二酸化炭素に次いで多く排出されている。そして、メタンガスは二酸化炭素の約25倍もの温室効果を持つ。そのメタンガスの多くが「牛のげっぴ」で、牛の体内で作られたメタンガスが放出されたものだと言われている。

牛のげっぴとは意外に思われるかもしれないが、この地球上には飼育されている肉牛や乳牛などの牛が約15億頭もいる。その牛のげっぴから排出されるメタンガスは大気中のメタンガスの約20~30%を占めるとも言われている。

そこで、牛のメタンガスを減少させようと世界中で研究が進められている。その中で近年、画期的な発見があり、牛が出すメタンガスの約 9 割を減らす食べ物が見つかった。その食べ物とは海藻の「カギケノリ」である。

牛には胃袋が 4 つあり、特に 1 つ目の胃袋は大きく、その中で草や穀物などの食べ物を栄養として摂り込む時に、胃の中にいる細菌の分解酵素によってメタンガスが発生してしまう。

カギケノリはその分解酵素の働きを抑える働きがあり、これにより牛の体内で発生するメタンガスの量を減らすことができる。つまり、カギケノリを餌として食べさせると地球温暖化の一因であるメタンガスが削減される。

カギケノリは世界中の暖かい海に自生している紅藻で、乾燥させて牛の餌に 2%ほど混ぜるだけで、牛から発生するメタンガスを 90%以上削減できるという研究結果もある。また、将来において安定供給できるようにカギケノリの養殖の研究も行われている。

また、最近ビーガンが話題となっている。どうして肉を食べないのか。その背景に牛のけっぴがあるということ。私たちが牛肉を食べれば食べるほど、たくさんの牛が無理矢理太らされて育てられ大量のメタンガスを発生させているということにも繋がり、温室効果を増加させ地球温暖化という自分達の首を絞めることとなる。

出典：雑学ネタ帳

【6】福祉事業団体の活動

以下の URL からご覧ください。

(1) 九州労働金庫熊本県本部

<https://kyusyu-rokin.com>

(2) こくみん共済 coop 熊本推進本部

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/kumamoto.html>

(3) ユニオントラベル熊本

<http://unitora.com/>

◇お取り寄せグルメの取り扱いを始めています。是非ご覧ください。

[お取り寄せグルメ-ユニオントラベル熊本 \(unitora.com\)](http://unitora.com/)

(4) 秋津レークタウンクリニック

<https://akitsu-laketown.jimdofree.com/>

(5) ライフサポートセンターくまもと

<http://blog.rofuku.net/kumamoto-lsc/>

(6) 熊本県労働者福祉会館

[\(http://www.roukan.org/\)](http://www.roukan.org/)

【7】事務局からひと言

■ **参院選が6月22日公示され**、前回 2019 年比 175 人増の 545 人が立候補を届け出た。共闘を見送った野党側の候補が増え 1995 年以來 27 年ぶりに 500 人を上回りました。候補の 8 割は新人で、女性比率は初めて 3 割を超える米英並みの水準となっています。ただし、候補者数であって、候補者の 3 割という水準では当選者の割合で海外に追いつくことはできません。

以下各政党党首の第 1 声を拾ってみました。

■自民党・岸田総裁 「日本を守り、未来を切り開く」 ■立民・泉代表 「バランスとれた国

家予算を」■公明党・山口代表 「日本を前に進める」■維新・松井代表 「安全な原発、短期稼働を」■共産・志位委員長 「対話で東アジアの平和つくる」■国民民主・玉木代表 「給料を上げ、国を守る」■れいわ新選組・山本代表 「消費税廃止で景気回復」
■社民党・福島党首 「憲法改正を止める」■NHK党・立花党首 「受信料巡る裁判費負担」

私たち有権者がどう考え、どう行動にでるのか。そして7月10日にどのような結果がでるのか。

今私たちは多くの課題に直面しています。ウクライナ問題から、円安・食品・エネルギーの高騰等家庭への負担増は半端ないものとなっている。猛暑予報の中での電力供給の逼迫も危惧するところである。・・・各政党は、しっかり国民の声に耳を傾けてほしいと願う。次代を担う子どもたちのためにも、今に暮らす私たちは負の遺産を引き継ぐことはできない。政権交代の選挙ではないが、私たち一人一人がしっかり考え、一票を投じなければならない。

弱者にやさしい政策であってほしいと思います。それは労福協の理念にあったものであると思います。

🍌アジア・アフリカ支援田植え（主催 食と環境を守るくまもとの会）

6月25日熊本市海路口町の田んぼで熊本市立古町小学校児童・PTA（校長先生・教頭先生・保護者）・食みどり水を守る熊本県民会議のメンバーなど50名で「マリ共和国」へ届けるお米の田植えを行いました。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの取り組みとなり、当然子どもたちにとっては初めての経験で、心配された雨も降らず無事終わりました。古町小の取り組みは今回で26回目になりました。2003年にはWFP（国連世界食料計画）がカンボジアで開催した支援米贈呈式に古町小の5年生が招待され、現地の子どもたちと親交を深めてきました。この取り組みには、食の大切さ、生産に従事する方、給食を作ってくれる先生への感謝、毎日ご飯を作ってくれる親への感謝、そのような気持ちの醸成につながっていると思います。子どもたちが「楽しかった。ありがとうございました」という言葉は、この取り組みに従事している会の皆さんへの労いの言葉になっているということも言うまでもありません。

10月の稲刈りが楽しみです。



今こそ!

労福協の力を

「持続可能な社会をめざして」「誰ひとり取り残さない社会をめざして」そのような思いでふれあい通信を継続していくことができれば・・・

ご意見、ご要望をお聞かせください。

一般社団法人 熊本県労働者福祉協議会

〒862-0976

熊本県熊本市中央区九品寺 1 丁目 17-9

TEL 096-375-6029 FAX 096-375-6030

E-mail rofuku@lime.ocn.ne.jp